

佳作

くじらのなかに

岐阜県 岐阜市立長良東小学校一年 田中 仁晟

「くじらがジャンプしたよ！」

なつやすみにかぞくでわかやまけんのかくじらはくぶつかんにいききました。そこにはくじらがみれるときいて、いちどくじらを見てみたからです。

そこまでいくあいだのどうろのかんばんには「くじらていしよくあります」とかいてありました。おかあさんにきいたら

「おかあさんがしょうがくせいのおきのきゆうしよくには、くじらのおにくがでたのよ。にほんじんは、くじらをむかしからつかまえてたべているのよ。」

といいました。

ぼくはびっくりしました。くじらは、とてもおおいからつかまえることはできないし、たべることのできないとおもっていました。

はくぶつかんのなかには、くじらのほねや、ひげやたべるものがてんじしてありました。くじらのあかちゃんもてんじしてあって、ぼくはびっくりしました。そしてくじらをつかまえるためのやりや、ふねのもけいもてんじしてありました。

それからそとへでてくじらのショーをみました。

くじらを見るのはじめてだったし、ショーをみるのはじめてでした。くじらは、すぐはやくおよいだり、たちおよぎをしたりしていました。おにいさんのふえのおとでとてもたかくジャンプしていました。「くじらってこんなにかしこくてかわいいうぶつなんだな」とおもいました。エサをあげたり、しゃしんをとったりしたら、ますますかわいくなりました。

ぼくは、くじらていしよくのことをおもいだしました。くじらをつかまえてころしてしまふのはすこしかわいそうにおもいました。わるいことをするとうぶつじゃないんだからなかよくできないのかなとおもいました。

ぼくたちにんげんは、いろんなどうぶつをつかまえてたべているんだなとおもいました。

これからは、しよくじをするときは、ちゃんと

「いただきます。」

とごはんをつくってくれたおかあさんにもたべもの
になってしまったどうぶつにもてをあわせてたべよ
うとおもいます。

たいせつないのちをむだにしないようにたべようと
おもいます。